

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272300254		
法人名	有限会社ウェルサポート		
事業所名	グループホーム「第二わらび苑」	ユニット名	I
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西浜郷1622-63		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年3月16日	評価確定日	平成29年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは小規模団地(15軒)の中にあり、ユニットIとIIが別棟で並んでいます。1軒を除いては全てが当ホームより後に新築されたもので、小さい子供が沢山いて賑やかな団地です。それぞれが日頃から挨拶を交わしたりして顔見知りばかりです。このような地域の中で入居者と職員は日々暮らしています。当ホームの経営者は地域出身であり系列ホームと一緒に認知症の人やその家族を支えるための活動を関係機関と協働して活動しています。地域の人が認知症になっても素晴らしい環境の下で暮らし、常に笑顔で生活できるよう支援しています。また、開設から12年が経過して今までの実践から得た知識等を積極的に地域に発信しており年々地域からの信頼を得ることができ、入居者の家族にも安心して頂けるようなホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム「第二わらび苑」」の周辺は住宅地と共に自然も多く、ホームの敷地内には四季折々の花が植えられている。ホームのある場所は高台で、土地開発の際は山を削って作られ、岩盤が固い事も確認されている。日々の生活では、ホームの玄関の前のベンチに座り、山の木々を眺めながらお茶を楽しまれたり、ご利用者と一緒に料理や掃除をされるなど、共に支えあって生活されている。ご利用者の「しぐさ」や手足の何気ない動きから、昔行っていた「地域の運動会の応援」である事を理解されるなど、ご本人の生活歴を理解し、日々の会話の中に「思い出(楽しみ等)」を自然と取り入れている。「自立支援」への取り組みも素晴らしく、「できること」「できそうなこと」を丁寧に把握し、職員全員で「介護計画」と「手順書」を共有し、日々の役割を増やされている。今後も、ご利用者と家族、地域を「繋ぐ」役割を継続すると共に、理念にある「ゆっくり」を増やし、買い物等の外出支援に繋げていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立当初からの理念に沿い、ミーティングや日頃のケアの中で意識し、全職員が理念を理解・共有して日々の実践に努めている。	「みんなで、いっしょに、ゆったり、たのしく」という理念を実践するために、ご利用者の意向を大切にしながら、“いっしょに”できる事を増やしている。ケア内容(介護計画)を職員全員が理解し、チームワークも良好である。今後も「ゆったり、たのしく」を実践するために、話し合いを続けていく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域のお祭りや行事に参加している。学童クラブや保育園との交流も毎年行っており、夏祭りには地域の方々を招待している。一緒に楽しんでいる。	わらび苑の夏祭りに地域の方や子ども達も参加して下さり、敬老会でもボランティアの方がワグダンスやお琴の演奏をして下さった。お寺の花祭りに参加して甘茶を飲まれたり、お寺の学童クラブの子ども達や保育園児の訪問もあり、お遊戯の披露や肩たたきをして下さり、楽しいひと時になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は常に開かれており、あらゆる相談を受けたり、支援を行なえる体制をとっている。また、理事長が家族教室の講師を務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、外部評価後は運営推進会議で結果報告を行なっている。会議では日頃の利用者の写真などを掲載してホームの様子を知って頂けるよう努めている。	家族等が参加しやすいように、日曜日に開催する等の工夫が行われている。新年会も行われ、ご利用者も一緒に楽しいひと時を過ごされている。会議では介護保険の情報交換と共に、畑や猪情報も共有し、防火訓練の報告や自然災害等の検討も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から地域全体の課題について話し合える関係があり、協働しながら取り組んでいる。	理事長は認知症地域支援体制構築等推進協議会のアドバイザーであり、地域包括ケアに通じる様々な役職を担っている。管理者が市を訪問し、入退居情報や取り組み内容を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内外の研修会参加やミーティング等を通じて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束は虐待。例外はない」という理事長の考えを職員は理解している。穏やかに過ごされている方が多く、転倒の危険がある方を含めて見守りを続けている。家族にもホームの方針とリスクを説明し、対応方法の話し合いが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内外の虐待防止研修に参加して、虐待がないよう、また虐待が見過ごされることがないように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内外の権利擁護、成年後見制度の研修を受け、必要な場合はそれらを活用できるような体制を整えている。必要な人には関係機関に繋いでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書や重要事項説明書に提示し、契約前に十分に説明を行い理解に努めている。また、不安や疑問がある時はいつでも説明を行い、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時に色々な話をし、その中から意見や要望が出てくるよう努めている。また、出てきた要望は職員間で共有し、出来ることは実施できるよう努めている。	面会時や電話で会話をする機会が作られ、ご本人にとっての最適な住まいの検討も続けている。遠方の方の面会時には理事長が駅までの送迎を行い、車中で色々な思いを伺っている。ホームに宿泊(4~5日)される方もおられ、ケアのお手伝いをして下さっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等や職場内研修の場で聞くように心がけている。利用者や職員にプラスになる提案は、反映できるように努めている。	ホーム運営に関する説明があり、職員も納得して頂いての異動が行われた。両ユニットの個性もあり、職員の良さを引き出すように努めており、行事に関するアイデアも出して頂いている。職員同士の助け合いも多く、系列のホームから異動してこられたホーム長や職員とも連携し、ケア内容の共有に努めている。	今後も両ユニットの現状把握を行い、職員個々の思いに寄り添うと共に、系列ホームの職員も一緒に、以前行われていた研修を再開し、職員全体の更なるレベルアップに繋げていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が向上心を持って働けるように職員と話をしながら環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内の新任研修や常勤職員研修、全職員での研修を実施している。また、西海市福祉施設連絡協議会の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西海市福祉施設連絡協議会が実施する研修会等に積極的に参加して他事業所との意見交換を行なっている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居当初に本人の生活歴、状態の把握に努め、少しでも安心して生活していただけるよう努めている。また、情報は職員間で共有できるようミーティング、申し送りなどで行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と話し、事業所が出来ることを説明し、家族に不安を与えず安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとって、今一番必要なものは何かを考える。それに応じたサービスを一緒に考えて対応していくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでは日々の生活の中で、職員と利用者が一緒になって料理や掃除をするなど、共に支えあって生活している。介護するという気持ちではなく、同じ時を過ごしているという気持ちで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を十分に把握し、利用者の日々の暮らしや気づきなどの情報を共有し、一緒に本人を支えていくよう努めている。また、職員も家族に支えられ、良い関係が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との会話の中や、家族からの聞き取りを行い、本人にとっての大切な人や場所との関係継続に努めている。	センター方式を利用し、生活歴(馴染みの人や馴染みの場所の把握等)の把握を続けており、近所の方の面会も増えている。花祭り等の地域行事にお連れし、地元の方との交流が行われ、馴染みの美容室に家族と行かれたり、家族と一緒に自宅やお墓参りに出かける方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者と職員と一緒に食事をしたり、利用者同士で話を出来る場所を利用している。また、日中にみんなで体操やレクリエーションなどをして楽しんで過ごせるように支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからもホームに訪問して下さったり、行事に参加していただくなど、かわりを続けられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での会話、行動、表情などから思いや意向の把握に努めている。また、家族などからも情報を得て、本人の気持ちになって支援できるよう努めている。	ご利用者から要望等を伺うようにしている。センター方式やアセスメントシート、個人記録や何でもノート(おしゃべりノート)に記入し、日々の生活で実現できるように努めている。家族の思いを伺うと共に、ご本人本位の視点で話し合いを続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族などから聞き取りを行っており、近所の方が来られた時も生活歴について尋ねて把握に努めている。また、アセスメントシートを活用して生活歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に生活していく中で「できること」「できないこと」「わかること」「わからないこと」を見極め、利用者の生活リズムを把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとって何が課題か、どう暮らしたいのかを考えて、本人や家族の思い、意見を全職員がアセスメントシートに記入する。そこから得た情報や意見を反映して、介護計画書を作成している。	「家に帰りたい」「散歩に行きたい」等の要望を把握している。センター方式(暮らしの情報シート等)を活用し、「できること」「わかること」等を職員間で共有し、介護計画以外に手順書を作成し、職員全員で共有している。リハビリの視点も大切に日々の生活支援を続けている。	今後は24時間全ての支援を明記した日課表(3表)を作成し、ご利用者個々の暮らしぶりや介護内容、留意点などを家族と共有していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やおしゃべりノートに日々の生活状態や気づきなどを記録し、職員間で情報を共有する。モニタリング、介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特別な要望があればその都度検討し、出来る限り支援できるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どのような地域資源があるかの把握に努め、利用者一人ひとりの暮らしに活かしているように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	極力、利用前のかかりつけ医を継続し、本人が安心して医療を受けられるよう支援している。遠方の方は本人や家族に説明し、事業所の協力医療機関にさせていただいている。	協力医はいつでも相談に応じて下さり、受診結果も家族と共有している。病気や内服等の勉強会も行われ、職員も小さな変化に気づき、早期受診に繋げている。行動障害が見られる方も、「ご本人が一番辛い」と言う事を職員全員で理解し、専門医との情報交換を続けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と連携をとり行なっている。また、受診や先生への連絡がスムーズにいくように、日頃から協力医療機関の看護師と情報交換を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には家族と連絡をとったり、病院に訪問して病院関係者と情報交換をするなどして、利用者が安心して治療できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向、協力医療機関と連携を図りながら、事業所としてもどこまで出来るか模索し、全員で方針を決めて支援している。	24時間の医療連携が困難であり、入居時に「終末期ケアは行っていない」事を伝えている。ご本人や家族の意向を確認し、「できるだけ長くホームで」「ホームで葬儀を」等の希望を伺っている。体調変化に応じて、主治医や家族等との話し合いを行い、職員全員で病院に移転される“ぎりぎり”まで、誠心誠意のケアをさせて頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応が出来るよう消防署の「普通救命講習Ⅰ」を受講しており、緊急時の対応に備えている。ホーム内でも勉強会をしており、新人職員には最初に勉強会を行なっており。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	職員は利用者一人ひとりの避難方法を訓練し、災害時の避難場所、避難地も把握している。地域の方には災害時の協力をお願いしている。また、スプリンクラーを設置し、より対策を強化している。	運営推進会議で防災対策(避難場所等)が検討されており、年2回、系列ホームと合同で防火訓練(夜間想定)を続けている。日々の防災チェックを続けると共に、各機関(西海市、消防署、消防団、西海市社会福祉協議会、西海市福祉施設連絡協議会、地域住民等)との協力体制もあり、西海市と協力して備蓄の検討も行われている。29年度は消防署との合同訓練が検討されている。	災害に備えて、カセットコンロ、米、缶詰は常時保管している。今後も系列ホームと連携し、3つのホームで賞味期限の時期をずらしながら、備蓄を増やしていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修やミーティングなどで、声のかけ方や言葉の使い方など職員間で話し合う。また、他の利用者への配慮や利用者の思いを否定しないように注意して、人格の尊重、プライバシーの確保に努めている。	「個人情報の取扱いに関する規程」を策定し、職場内研修等で個人情報管理の確認が行われている。ご利用者に対しては年長者としての敬意を持って接しており、ご利用者の意思決定を大切に声かけを続けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや趣味など、日常生活の中で把握に努め、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間にとられず、その時の状況や状態によって、本人に合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援している。また、家族に尋ねるなどして、その人らしい格好が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者と一緒に調理や食事をしている。献立を考えたり、片付けなども一緒に行っている。季節に合わせた食事を心がけており、宅配サービスなどを使い様々な食材を取り入れて、食事を楽しんで頂けるよう工夫をしている。	買い物は職員が行い、牛乳とお米は宅配で届いている。旬の料理が作られ、ちらし寿司や”芋飯”、ぼた餅等も手作りしている。ご利用者も皮むきやテーブル拭きや配膳、下膳、食器拭き等をして下さり、外での焼き芋も恒例で、皆さんで美味しく食べられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算表、水分補給チェック表で一人ひとりの摂取状態を把握し、支援に努めている。摂取困難な方には、代替品の栄養剤などを使用し栄養補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は声かけ、見守りをし、出来ない方には誘導や口腔ケアを行なっている。また、歯医者に行き、義歯の調整や洗浄を行なっている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを調べる。それをもとにトイレ誘導して、失敗を減らせるように支援している。	排泄が自立し、下着を着用する方もおられる。パッドの大きさも個別に検討し、個別のトイレ誘導を行う事で排泄の失敗が減り、紙パンツから下着に変更できた方もおられる。自立支援の視点で“待つケア”も続けており、夜も安眠を重視しながら、必要に応じてトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を職員間で考え、水分補給や食事の工夫、軽い運動をしてもらい、自然排便が出来るように取り組んでいる。また、水分チェック表も活用して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯はある程度決まって支援しているが、希望があれば入浴できる体制を整えている。また、入浴剤や菖蒲湯など、入浴を楽しめるよう支援している。	入浴好きな方もおられる。湯船に浸かり、職員との会話を楽しまれ、柚子湯やみかん湯等も楽しまれている。安全のために滑り止めマットも活用し、手すりも増やされている。体調に応じて2人介助が行われ、できる所はご自分で洗われている。寝る前は陰部清拭が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯や起床時間は決まっておらず、その人の生活リズムで休息している。また、日中色々な活動をしたり、居室の温度や湿度を調整するなどして、安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人記録にファイルしており、職員がいつでも見られるようにして理解や把握に努めている。また、副作用の理解にも努め、内服後は様子の変化も気をつけて観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや掃除など、その人の持っている力を引き出し、日々の生活で発揮してもらえるように努めている。また、生活歴を活かした楽しみごととして、ドライブや散歩、趣味などで気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中に楽しみや気分転換が出来るために、ドライブや散歩、地域の行事に行くなど外出する機会を作っている。また、個人の生活歴や希望の把握にも努め、個別の外出支援も行なえるよう支援している。	天気の良い日は外に椅子を出して、お茶を楽しまれたり、外のベンチで体操をされる時もある。ホーム長が育てている“バラ園”も好評で、四季折々のお花を楽しまれている。ドライブをしながら季節の花見(桜・秋桜など)をされており、「綺麗かね」等の声が聞かれている。	今後は更にドライブや買い物等の外出を増やしていきたいと考えている。家族との外出や自宅への帰宅が減っており、家族との話し合いを続けながら、「帰りたい」と言う願いを叶える方法を検討していく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在、お金を持っている人、お金を持ちたいと言われる方はいない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族に電話したいと電話をかけたり、家族からの電話があり取り次いだりと、その都度対応できる環境を整えている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間では、出来るだけ家庭的な物を置き、台所の音、食べ物の匂い、季節の花を置くなど、利用者の五感に対して心地よい空間になるよう心がけている。</p>	<p>ホーム周りの花壇には、ホーム長が育てる花が咲いており、家族や地域の方からも好評である。ホーム内は日々の掃除が丁寧に行われ、換気や温度管理も続けている。ご利用者は思い思いのソファ等で寛がれており、ご利用者同士の関係にも配慮し、適宜職員が間に入り、快適に過ごせる努力を続けている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールソファやいす、玄関周りなどで一人で過ごしたり、他利用者とは過ごせる空間を作っている。また、ソファやいすの配置を調整するなど過ごしやすい空間になるよう努めている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れた物を持ち込んでいただき、本人が落ち着いて過ごせる居室になるよう配慮している。</p>	<p>居室からバラの花々を眺める事もできる。ご本人が安心できるように家族の写真を壁に貼ったり、家族からの手紙を読まれて、枕元に置かれている方もおられる。ソファや時計、ぬいぐるみ、化粧道具を持ち込まれたり、お位牌を置かれている方もおられ、時々、お水をお供えている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下幅、廊下両側の手すり、脱衣所や浴槽の滑り止めなど、安全確保と自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		